

5年目の3.11 あの日の経験を忘れない

オガール地区で3月5日、2016東日本大震災追悼夢灯りが開かれ、情報交流館前に並べられた約550個の夢灯りが辺りを優しい光で包み込みました。町内有志が東日本大震災追悼夢灯り実行委員会（橋浦栄一実行委員長）として企画しているもので、今年で4年目。80人ほどが参加し、夢灯りに点火した後、大槌町在住でNPO法人@リアスNPOサポートセンターの^{おんたけ}一兎膏恵さんから被災当時の大槌町の様子や、復興への取り組みなどについてのお話を聞きました。ボランティアで参加した紫波総合高校2年の小笠原遥香さんは「夢灯りがきれいについて、うれしかったです。今日のお話で、今まで知らなかった被災地の現状が分かりました。今後、被災地でのボランティアにも携わりたいです」と、被災地へ気持ちを寄せていました。



「命を大切にしよう」などのメッセージやイラストが描かれた夢灯り

平沢北生産組合が麦作で農林水産大臣賞を受賞



熊谷町長の元へ報告に訪れた(左から)齋藤吉男副組合長、藤原康則さん、藤原庄司組合長、藤原政義小麦部長(3月1日)

平成27年度全国麦作共励会で、赤石地区の平沢北生産組合（藤原庄司組合長）が最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。同組合は、専業農家4戸を含む22戸で構成され、農地の約45%に当たる2.1haで、病気に強い小麦品種「ゆきちから」を栽培。排水性の高い土地で連作を繰り返すことで畑地化を促しています。また、独自に研究を重ねることで、地域に合わせた栽培方法を追求し、その成果として、27年度産の10アール当たりの収量は、県平均を大きく上回る375kg、品質も4年連続の1等比率100%という高品質を達成しています。藤原組合長は「夢にも思っていないことで光栄です。組合員の協力あつてのたまものだと感じています。この受賞を機にさらに団結し、より収量をも高める生産技術を磨いていきます」と喜びの表情で語っていました。

6カ月間無火災で消防団が県知事表彰

町内で火災が連続で6カ月間発生しなかったことを受け、町消防団は県知事表彰を受賞しました。期間は、平成27年8月27日から平成28年2月26日まで。これは、町政発足以来の快挙です。阿部秀夫消防団長は「昨年は火災の多い年でしたが、各地区で火災予防啓発に力を入れて取り組んだことで地域の理解が深まり、半年もの無火災を達成することができたと思います。今回の受賞を機に、火災予防の注意喚起や消防訓練に一層力を入れていきたいです」と、継続した火災予防の徹底を誓っていました。



県知事から授与された無火災表彰旗を掲げる女鹿廣副団長(左)と表彰状を手にする小田中光雄副団長(右)(3月17日)

より高い安全・安心に期待「古館浄水場」が完成



完成記念イベントが行われた3月12日には約70人が訪れ、職員の説明を受けながら施設内を見学しました

施設の老朽化に伴って平成24年から進められてきた古館水源系施設更新工事が完了し、3月11日に古館浄水場で落成式が行われました。この工事により、古館地区から口詰地区までの約4300戸に供給するための設備である古館浄水場と古館城山配水池、配管の一部を更新。浄水場の設備には、細かいフィルターでゴミを取り除く最新の浄水設備「膜ろ過方式」が採用され、建物も洪水に備えた造りに一新。古館城山配水池は、以前よりも20m高い位置である城山公園の若殿屋敷跡の地中に整備され、水圧の低い地区の解消につながりました。いずれの設備とも耐震性や耐久性に配慮しており、より災害に強い施設となっています。

日話商店街で3月11日から13日まで、平井家住宅をメイン会場に「紫波のひなまつり」が開かれ、1000人以上が訪れるにぎわいとなりました。期間中、平井家住宅では、親族の平井敬久さんが、建築の特徴や平井家の先代たちの活躍、原敬をもてなした時の裏話などを披露。建物の評判を聞いて大工職人仲間と訪れた鈴木勿造さん（花巻市）は「職人の仕事ぶりや材料の良さが随所に見られます」と驚嘆していました。この他、商店街の各店舗でもひな人形を飾ったり、特別メニューを提供したりするイベントが行われました。



「めでたいなーめでたいなー」のおはやしで始まる「竹の子舞」を披露し、お祝いムードを盛り上げた南日話太神楽保存会の子どもたち(3月12日)

重文・平井家住宅で 趣きあるひなまつり

自慢の腕を披露 素人そば打ち大会

第8回紫波町素人そば打ち大会は3月21日、ラ・フランス温泉館で開催されました。県内一の作付面積を誇る町のソバを広くPRしようと毎年開かれているもので、今年も町内外から12人が参加。十割の部と二八の部に分かれ、町産そば粉や水分神社の水を使い、技術面のほか、衛生面や態度を競いました。十割の部に出場した小野寺忠一さん（二戸町）は「そば打ちは、1回1回が同じ方法でできないという奥深さがあるところが面白い。毎年緊張しますが、来年もまた出たいです」と、同志との技の競い合いを楽しんだ様子でした。結果は次のとおりです。（敬称略）

《十割の部》最優秀賞 田村守（岩手町）、優秀賞 小野寺忠（二戸町）
 《二八の部》最優秀賞 関口善之介（奥州市）、優秀賞 峠松（二戸町）



リズム良く麺棒を転がしながら、そばの生地を広げる参加者たち

青い光で事故の無い明るい地域へ

古館地区交通安全協会（長谷川与志美会長）は3月下旬から、古館駐在所の協力を得て、古館公民館の玄関口でカプセル入りLEDクリップライトの販売を始めました。このライトは、地域内にある桜の名所「城山」にちなんで「桜居灯（咲くライト）」と名付けられています。

3月16日と23日には、地域の小学5年生5人が宣伝ポスターを作成。「みんなで意見を出して、子どもにもお年寄りにも見てもらえるようなデザインにしました。みんながこのクリップライトをつけて、夜でも安全に歩ける、笑顔でいっぱいの明るい地域になってほしいです」と中島彩乃さん。長谷川会長は「古館地区は国道4号を挟む地域で、危険も多いです。子どもたちのポスターを見て、交通安全への意識を高めてもらえれば」と期待していました。



完成したポスターに自信を見せる子どもたち



クリップライト

2台目の電気自動車「e-NV200」が町へ



親子連れなどが見守る中、日産プリンス岩手販売株式会社の千葉泰代表取締役社長（右）から目録を受け取った熊谷町長

町は3月17日、日産自動車株式会社から3年間の無償貸与を受ける電気自動車「e-NV200」の発進式を行いました。同社が地球温暖化防止対策として取り組む「電気自動車活用事例創発事業」により貸与するもので、県内では紫波町と平泉町の2町のみ。車両はワゴンタイプで、充電が満タン状態だと約190kmの走行が可能。車体内部にはコンセントが2カ所あり、一度に1500ワットまで使用することができます。車両ナンバーはこの事業を記念した「48・23（紫波・日産）」となっており、町では今後、「環境のまちづくり」のPRや、団体でのおもてなし、災害時の予備電源などに活用する予定です。